

PLAISIR



vol.

1

2022.7

特集

医療を地方創生へとつなぐ



会津中央病院



福島医大との連携

地域包括的癌診療研究講座 柴田昌彦教授

2020.2月、福島医科大学に地域包括的癌診療研究講座が立ち上がった。この講座は、講座主任の柴田昌彦教授を筆頭に、会津地域における包括的な癌検診、診断、治療の実践と福島県内の地域医療機関を含めた癌診療と救命医療との連携推進を研究テーマとし、会津エリアの医療体制の充実、さらには福島県全体としての医療体制の拡充を考え研究を進めている。また、柴田教授は同年、会津中央病院のがん治療センター開設準備室・室長にも着任し、会津中央病院がん治療センターの立ち上げに尽力されている。

会津中央病院 がん治療センター

スマートシティ会津 医療を 地方創生へと つなぐ

国のがん対策基本法などで、がんの罹患率や5年生存率も改善してきているが、まだまだ増加傾向である。医療技術革新が進む今、がんの治療が大きく変わろうとしている。最先端のロボット手術や、がんをピンポイントで治療する放射線治療、新薬の開発、ゲノム検査によるプレジジョンメディスン医療など、最前線の医療技術は進化し続けている。更には、緩和医療やアピアランスケア、治療の支援体制など、がん治療に対するバックアップ体制の構築も進んできている。

text:
福島県立医科大学
地域包括的癌診療研究講座
柴田昌彦教授



会津中央病院の がん治療への取り組み

がん治療センターの事業構想は2020年から検討をスタートさせた。病院長を筆頭に、がん集学的治療準備委員会を立ち上げ、医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、ソーシャルワーカーなど多職種メンバーを招集し、現状の運用確認と問題点の整理など新規事業へ向けて検討会をスタートさせた。さらに、放射線治療委員会、化学療法委員会、緩和ケア委員会など各小委員会を設置し、各種治療のプロトコルや患者動線の検討、マニュアル作りを進めております。また、スタッフ教育にも力をいれ、2ヶ月に一度のがん治療に関する講演会の開催、キャンサーボードなど多職種での症例検討会の開催、専門医や専門看護師などの養成など、職員個々のレベルアップを狙った人材育成教育体制を整えて参りました。
がんに関する研究は目覚ましいスピードで進み、それに伴ってがんの治療法も進化を遂げています。都心のがんセンターのような巨大な組織では研究に直結した治療をそれぞれ完遂できませんが、地方都市では、すべての治療分野を可能にすることは難しいです。患者さんは希望する治療を受けるためには複数の病院を掛け持ちで受診しなければならぬことも度々あります。しかし、今回のがん治療センターには放射線治療機器として評価の高いVanano TueBeamという最新鋭のものを導入し、手術療法、がん化学療法、放射線治療、緩和医療、そして患者さんの強力なサポートを行う部門を統合し、総合的に治療ができる施設を立ち上げる事ができました。

手術療法

これまで通り全力で癌を取り除き少しでも完全摘除による治癒を目指します。このためには内視鏡手術、ロボット支援手術を高い練度で行うことが必要となりますが、福島県立医科大学の外科手術支援チームが外科医の修練を含めた指導体制を確立していきます。

放射線治療

放射線治療装置Varian TrueBeam治療システムの導入に伴って、同一の機器を有する福島県立医科大学の放射線治療部門とオンラインの共同治療計画システムを開発します。このシステムによってこれまで実現不可能であった高い効果が期待され、治療部位にきわめて限局した照射と、治療部位を取り巻く正常組織には限りなく照射を避けることにより副作用を抑えることが可能となります。

化学療法

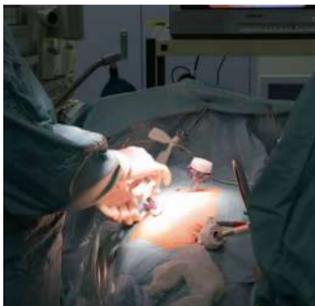
化学療法は、近年進歩が著しくがん治療の第4の柱と称されるがん免疫療法の普及によってその内容は大きく変化してきています。当院では福島県立医科大学で長年がん免疫学の研究に携わってきたスタッフが擁し、がん免疫療法の選択と実施に万全の体制をもって対応していきます。福島県立医大のがん免疫研究チームとも連携しさらに効果的、安全な癌免疫療法を求める活動を進めていく予定です。

緩和ケア

緩和ケアについては、がんによる症状、治療による副作用などに対して専門の資格を有する医師・看護師などのスタッフが一丸となって症状の改善を目指します。また、希望に応じて将来的な療養の計画を提案することも可能です。がんの罹患や増悪に伴う精神的な負担や将来的な不安、金銭的な不安やご家族に対する思いなど、専門医をはじめソーシャルワーカーや事務職員も全力で患者さんとご家族を支えるべく努力して参ります。

アピアランスケア

がん患者さんには見た目(アピアランス)、身体的・美容的な面での支援(アピアランスケア)が必要になります。化学療法の副作用としての脱毛はその典型ですが、動きながら治療に挑む方が増えており、アピアランスの重要性は年々高まってきています。がん対策基本法でも、化学療法などのがん治療は通院治療で働きながらの継続を薦めており、アピアランスケアの活動を展開してまいります。



がん治療センター 開設記念講演会

日時 2022年9月19日(祝日)
時間 13時
場所 会津若松市文化センター

「進化する放射線治療:会津中央病院に導入される最新の放射線治療機器でできること」

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
量子生命・医学部門長

中野隆史 先生

「消化器がんにおけるロボット手術と免疫療法」

福島県立医科大学 消化管外科学 主任教授

河野 浩二 先生



がん治療センター

水面に映し出される光と影のコントラストは昼夜を問わず幻想的な雰囲気を出している。木々を見ながらゆったり寛げる空間やスタッフが効率的に動ける導線作りなど、がん治療センターは様々な事が考えられ設計されている。



羽深隆雄 建築家

1945 新潟県上越市生まれ
1975 梅工房設計事務所設立
1989 羽深隆雄・梅工房設計事務所に改める

◆主な作品 WORKS

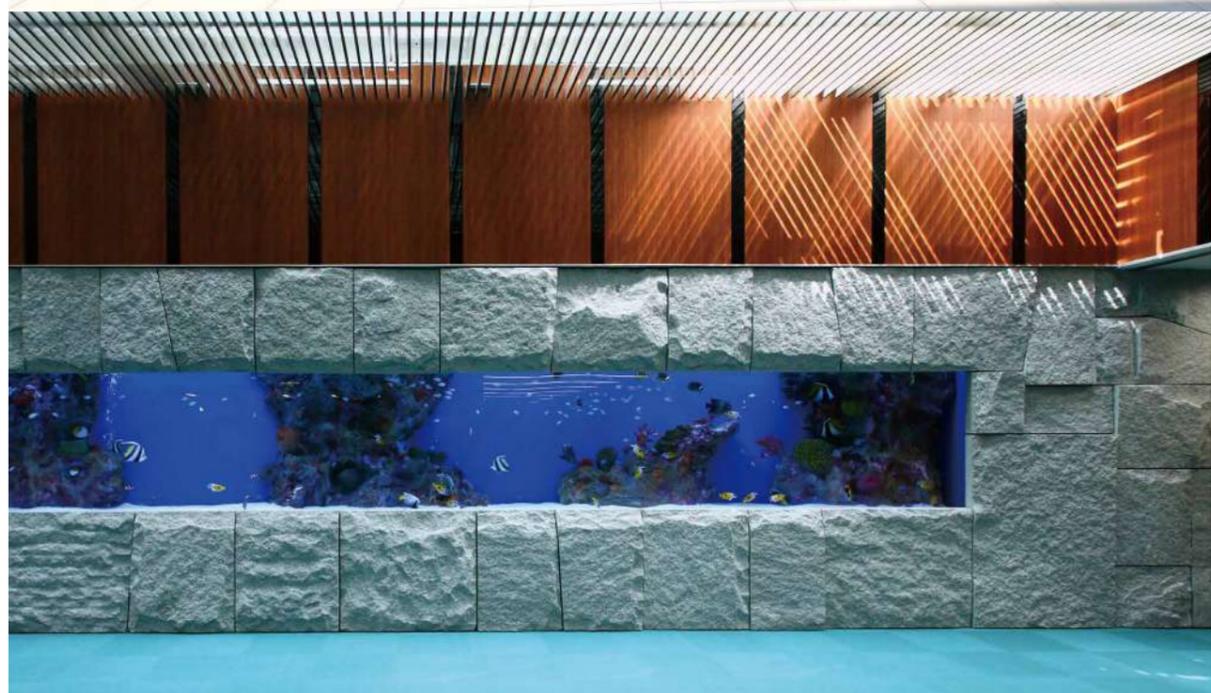
会津中央病院ウエスト棟、会津中央病院イースト棟、会津中央病院新館免震工事、プリスクール水輝（保育園）、四季彩一力（日本旅館）、仙寿庵（日本旅館）、貴祥庵（日本旅館）、大和の湯（温泉施設）、銀座久兵衛（寿司屋）、など

がん治療センター
そして、2022年7月、がん治療センターが竣工することとなる。この建築コンセプトは「生きるのではなく、生ききる力を導くこと」たった一度の人生のだから、勇気を持って何かを再発見し生きると言うことを大切に

ITによる技術力も駆使し検査や集中治療を可能とした超急性期医療に対応できる医療設備を重点的に整えた。更には、ここにも医療と建築のコラボレーションが、所々にセティングされている。イーストセンターとウエストセンターを行き来する天井の高い渡り廊下はメインホールと集約されていて中庭のモニメントや宇宙、地球、生命をテーマにした三枚組の意匠パネルが設置されており、幻想的かつ象徴的なパネルイメージは、ごく自然に人々のところを癒やしてくれる。

にしてほしいという思いが込められている。1階から3階までは吹き抜けとなっており、内外には滝や池、庭園などが設置され、空や水の青色、木々の緑色に、陽の光が差し込む幻想的な空間となっている。3階フロアー正面には六曲一雙の絵があつて、その下にシルクを染めたものを垂らす。そこに照明と風をあて、シルクの揺らぎを水面に映り込ませるなど数々のアート作品がセティングされている。こうした建築アートにより、生きる力、本来人間が持っている治療能力を呼び起す、心豊かで静かな動的空間を求めている。病気によって自由が狭められた患者が、心身ともに自由を取り戻す空間を提供し、メディカルと建築アートを組み合わせた新しい病院建築を目指した作品となっている。最高の医療技術と最高の建築アートで、他にはない全国初の新しい医療環境が誕生した。

（取材 成田尚也）



正面玄関から内部へ進むと、真っ先に目に入ってくるのは、巨大なアクアリウム。来院者は目の前でゆったりと回遊する熱帯魚に癒やされながら、下階から響くアクアパティオからの水音が、緊張した心を解きほぐしてくれる。

（上）イーストセンター棟
（下）ウエスト棟

メディカルサイエンスと
建築のコラボレーション

2009年5月、これまでの病院のイメージと一線を画すまったく新しい形の医療施設が誕生した。それは、会津中央病院「ウエスト棟」建築で目指したのは、患者に選ばれる病院らしくない病院だった。かつて病院建築で表現できなかった空間の創造性が仕込まれている。ウエスト棟は、外来や病棟などの機能性を高め、医療・福祉サービスをベースにした「おもてなしの心」が満ちている。

会津中央病院がコンセプトとした「ホテル並みの質を持つホスピタリティ空間」を建築家、羽深隆雄が具現化した。その空間デザインには、日常の環境で医療従事者と患者がともに治癒、快復を目指すためのさまざまな創意工夫がこらされている。

また、建物の外観は、優しさを表現するピンク、木調のライトブラウン、清々しいホワイトを基調とした外壁を使用している。それは白一色の無機質な病院のイメージではなく、まるで欧風ホテルのように町並みに溶け込む。光を導く壁面の総ガラス窓がさらに棟内の開放的な広がりを感じさせる。

イーストセンター

ウエスト棟が竣工した6年後には、医療の機能性を高め高度医療技術の提供を可能とした「イーストセンター」棟が竣工した。建物内には、救命救急センターをはじめ脳卒中センターや消化器病センターのほか、手術室や内視鏡システム、集中治療室システムなど

会津中央病院外科 がん治療の最前線



SURGERY

チーム医療の実践

会津中央病院外科は、食道・胃・大腸といった消化管疾患、肝臓や膵臓といった肝胆膵疾患、乳腺・甲状腺といった内分泌疾患など、良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応しております。

当科では、疾病別に消化管グループ、肝胆膵グループ、乳腺内分泌グループ、化学療法・緩和グループなど診療体制を4グループに分け、より専門的な医療を実践しております。

傷を出来るだけ小さくして行う手術（腹腔鏡手術や胸腔鏡手術、ロボット手術の導入）といった低侵襲性の治療にも力を入れ、悪性疾患のがんの状態やステージ、ご本人のご希望や生活状況を総合的に考え、幅広い選択肢の中から最適な治療方法を検討していきます。

text:
会津中央病院
外科統括部長 井上典夫

消化管疾患

消化管の疾患は食道から肛門までの疾患を扱い、特に食道がん、胃がん、大腸がんが多く、健診センターや消化器病センター、市内一般医院の先生方と連携し、早期のものは負担の少ない内視鏡的治療や放射線治療を選択し、進行したものは腹腔鏡や胸腔鏡、ロボット手術など低侵襲手術を目指しています。転移を伴う進行がんや再発したがん治療は化学療法や放射線治療などいろいろな手法を組み合わせた集学的治療を実践しています。

良性疾患では胃十二指腸潰瘍穿孔など消化管穿孔、虫垂炎など腹膜炎をきたす疾患や腸閉塞ヘルニア陥頓など緊急手術が必要な急性腹症の診察治療を行なっています。また尿管部のヘルニアや痔核、痔瘻などの肛門疾患も多くなっています。ほかには、泌尿器科や婦人科との合同で行う手術も多くなっています。

主な対象疾患

食道、胃、大腸などの癌疾患、悪性リンパ腫、消化管間葉系腫瘍、胃・十二指腸の穿孔や出血、家族性大腸腺腫症、大腸憩室炎、急性虫垂炎、大腸穿孔、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病、痔核、痔瘻などの肛門疾患、鼠径部のヘルニアなど

肝胆膵疾患

肝臓がん、胆道がん、膵がんなどの肝胆膵のがんは、診断が複雑で外科手術は煩雑で高い専門性を必要とする領域の疾患群です。当科は日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設のひとつで、本胆道学会、日本膵臓学会の指導施設の認定を受けている難度の高い手術や治療を提供できる施設です。また消化器内科、放射線科、心臓血管外科など他科との連携を密にすることで、さらに専門性の高い治療を行っています。また、肝胆膵のがんは早期に発見し治療していく事が最も大切です。地域の医療機関との病診連携を強化し治療成果を高めています。

主な対象疾患

肝細胞癌、胆管細胞癌、転移性肝癌、肝血管腫、肝嚢胞、肝硬変、門脈圧亢進症、胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌、胆嚢ポリープ、胆嚢腺筋腫症、胆嚢結石症、胆管結石症、肝内結石症、急性胆嚢炎、急性胆管炎、膵胆管合流異常症、膵癌、膵管内乳頭粘液性腫瘍、膵粘液性嚢胞腫瘍など

化学療法・緩和

治療方針は、あらかじめ院内のCancer Board、Tumor Board等で検討されます。外来での化学療法（抗癌剤投与治療）や外来緩和ケア、人工肛門などのストマケア、術後の外来栄養指導等を行います。また、当院には、緩和ケアの専門チームがあります。専門医だけでなく、薬剤師、看護師、リハビリスタッフやソーシャルワーカーなど、様々なスタッフがチームとしてサポートにあたります。治療に関する不安やつらさ等のご相談はもちろん、治療費などの経済的な不安や患者様を支えるご家族の方の不安などもご相談ください。

乳腺内分泌疾患

甲状腺、副甲状腺、副腎疾患、乳腺疾患の他、首や胸のしこり、内分泌機能の異常などを扱います。乳がんはマンモグラフィや超音波検査など各種画像診断による精密検査を実施し異常があれば、病変の一部を採取して顕微鏡で調べ確定診断を行います。手術は、部分切除や全切除術、形成外科との連携による再建手術などを施行しています。術中のセンチネルリンパ生検などで転移の範囲を確認し、体に負担の少ない手術体制を進めています。

緩和ケア外来

第2・4土曜日 午前
毎週月曜日 午後

緩和ケア外来での診察内容
・痛みや体のだるさ、吐き気、息苦しさ、食欲低下などのつらい症状の緩和
・患者様や御家族様のこころのつらさへの対応
・社会的な悩みを持たれている方のサポート
・療養先の選択に関する相談

施設認定

- 日本外科学会
外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会
専門医修練施設
- 日本肝胆膵外科学会
高度技能専門医制度認定修練施設
- 日本消化器病学会
専門医指定施設
- 日本消化器内視鏡学会
専門医指定施設
- 日本がん治療認定医機構
認定研修施設
- 日本救急医学
専門医制度指定施設
- 日本乳癌学会
認定医専門医制度関連施設
- 日本内分泌甲状腺外科学会
専門医関連施設
- 日本呼吸器外科学会
専門医制度関連施設

外科スタッフ紹介

(専門医・指導医は主たる資格のみ掲載)

統括部長(消化管外科)	井上 典夫	日本外科学会	専門医・指導医
外科部長(肝胆膵外科)	天野 穂高	日本外科学会 日本消化器外科学会 日本消化器病学会 日本胆道学会 日本肝胆膵外科学会	専門医・指導医 専門医・指導医 専門医・指導医 指導医 指導医
外科部長(内分泌・乳腺外科)	旭 修司	日本外科学会 日本内分泌外科学会 日本甲状腺学会	専門医 専門医 認定専門医
外科部長(緩和ケア)	島貫 公義	日本外科学会 日本消化器外科学会 日本消化器病学会 日本がん治療認定医機構 日本臨床栄養代謝学会 日本緩和医療学会	専門医・指導医 専門医・指導医 専門医・指導医 がん治療認定医 認定医 認定医
外科部長(消化管外科)	矢澤 貴	日本外科学会 日本消化器外科学会 日本がん治療認定医機構 日本臨床栄養代謝学会 日本内視鏡外科学会 日本サルコペニア・フレイル学会	専門医・指導医 専門医・指導医 がん治療認定医 認定医 技術認定医 サルコペニア・フレイル指導士
外科医長(肝胆膵外科)	畠 達夫	日本外科学会 日本消化器外科学会 日本消化器病学会 日本がん治療認定医機構 日本膵臓学会 日本臨床栄養代謝学会 日本胆道学会	専門医 専門医・指導医 専門医・指導医 がん治療認定医 認定指導医 認定医 認定指導医
外科医長(内分泌・乳腺外科・緩和ケア)	長谷川 翔	日本外科学会 日本乳癌学会	専門医 認定医
外科医師	吉森 大悟	日本外科学会	専門医
外科医師	南野 光太郎		



患者様の
快適な
環境づくり

透析センターオープン!

ストレスフリーの透析環境を重視

会津中央病院は、新たな知見を集積し良質かつ最新の高度医療の提供など、既成概念にとらわれない病院環境の創造を意欲的に進めてきました。新人工透析センターは、病床数50床、ひとつひとつのベッド間隔を広めに設計しプライバシーに配慮しました。

また、透析中に利用できるテレビやWi-Fi環境などアメニティ設備を充実させると共に、透析後ゆっくり休憩をとる事のできるサロンを設置しております。日常生活と密接な治療だからこそ、ストレスを感じさせない環境造りを大切にしました。



ベッド数	50床(一般透析室、個室透析室、待合サロン、ロッカールーム、専用駐車場)
透析療法	血液透析、血液透析濾過、血液濾過、持続血液透析濾過法等
透析開始	早朝透析 07:30~、午前の部 08:30~、午後の部 12:00~
主な設備	透析用監視装置、透析支援システム、超音波診断装置、体成分分析など
その他	送迎サービス、アーム型テレビ、Free-Wi-Fi、シャント管理、旅行透析

人工透析に関するお問い合わせ TEL.0242-25-1816 (人工透析室)
医療機関からのお問い合わせ TEL.0242-33-7100 (病診連携室)



送迎ルート

会津若松市内
コース
(月~土)
病院から
半径5km以内

会津美里町・
門田町
コース
(月、水、金)

喜多方市・
塩川・河東
コース
(火、木、土)

登録バス停に
バスが近づいたら
LINEで通知
(実証実験中)

♪「バスが会津中央病院を出発しました」
♪「あと5分程で城南小学校前に到着します」
♪「前のバス停を出発しました」

*事前のバス停登録設定が必要となります。 *送迎条件について詳しくは問合せください。

dialysis center

無料送迎サービススタート!

会津若松市内、会津美里ルート、喜多方市ルートで送迎サービスを始めました。

全身の
がんを
検査する



PET検査

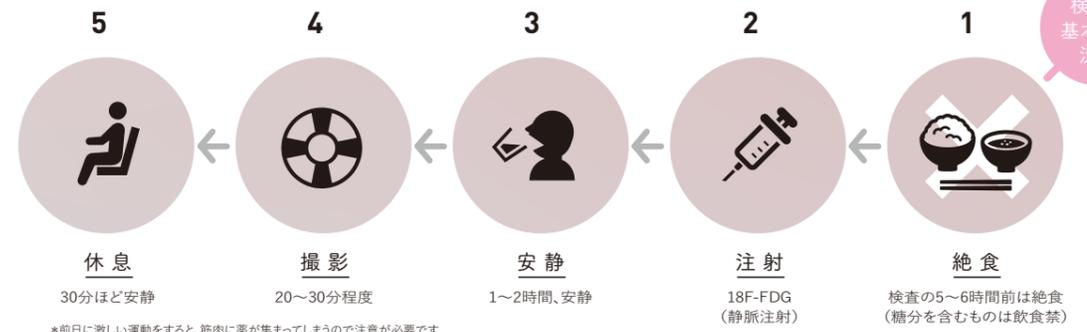
Positron Emission Tomography

PET検査は、がんの早期発見や、がん治療前にがんの広がり、他の臓器への転移を調べる検査です。また、がんの治療中の効果判定や、治療後の再発がないかを確認するなど、さまざまな目的で行われます。1cm以下の「がん」を発見するには、現在ではPET検査がもっとも有効といわれています。がんは、種類や状態により種々な検査を組み合わせ、早期発見が重要で、早期治療することで予後の改善につながります。

PET検査の原理

がん細胞は正常細胞にくらべて、多くのブドウ糖を細胞内に取り込む性質があります。その性質を利用して、ブドウ糖が多く集まっている場所を機器で検出し、がんを発見するのがPET検査です。ブドウ糖に「放射性同位元素」をつけた薬剤(18F-FDG)を注射すると、この薬剤ががんの病巣に集まります。薬剤が集まったところからは放射線が多く放出されるので、それを捕らえて画像化することにより、がんの病巣を見つけ出すことができます。

また、全身を一度の検査で診ることができ、がんリンパ節転移の有無の判断ができます。



検査の基本的な流れ



人間ドックのお問い合わせ
TEL.0242-24-6881
(健診センター)

医療機関からのお問い合わせ
TEL.0242-24-1534
(PET画像診断予約センター)

断にも優れているため、病期診断はCTやMRIに比べて特に効果的です。がんが疑われながら他の検査で病巣が発見できない原発不明がんの診断や、がんの早期発見、病期(進行度)診断、治療効果判定、転移、再発を調べるのに特に重要な検査です。

検査は、18F-FDGを静脈注射し、全身にくすりが行き渡るまで1時間から2時間安静にします。(その間、体を動かさず使った筋肉に薬剤が集まってしまうので、安静に過ごします)撮影はPET装置のベッドに横になり20分から30分間で終了します。放射性薬剤を用いるため比較的少ないですが、放射線被曝があります。また、使用する薬剤には、アレルギー反応や副作用はほとんど報告されていません。血糖値が高いと検査の精度が低下する可能性があるため、糖尿病と診断されている方、普段から血糖値の高い方は、あらかじめ相談してください。



「良好な栄養状態は、人間の幸福の基盤になる」

これは2013年に開催された、最初の「栄養サミット」の翌年2014年にこの会議の内容をもとに作成された「世界栄養報告書」の序文です。「持続可能な開発目標(SDGs)」が設定される前のことです。栄養不良の解決なくしては、SDGsの多くの項目を目標値に到達させることが困難になることが国際的に認識されるようになったそうです。

「良好な栄養状態」を維持するためにはどうすればよいのでしょうか。何を食べるか二つに一つ、でもなければ、ある特定の栄養素、食品、さらに食品群を極端に制限し、遂に過大評価して推奨することでもありません。このコロナ禍においては普段の生活に制限があったことにより、野菜や果物、乳製品が減少し、炭水化物を多く含む食品の摂取量が増加したそうです。このように食べることは様々な出来事の影響を受けやすく、毎食思い通りに、とはいかないことのほうが多いように思います。

おすすめは「一汁三菜」という日本の献立の考え方です。「良好な栄養状態」を保つための指標の一つに「日本人の食事摂取基準2020」というものがありますが、献立を「一汁三菜」で考えると、この中で示されている基準に自然と近づけるとは思います。ポイントは「減塩すること」です。昔ながらの「一汁三菜」となると少し食塩をとりすぎることになるので、薄味が好みの味になるよう、少しずつ時間をかけて慣れていきましょう。

栄養科 星 直子

外来受診の予約について(平日8:30-17:00)

紹介状をお持ちでない方

会津中央病院

TEL 0242-25-1515(代)

*紹介状をお持ちでない方の受診予約は各診療科へお問い合わせください。

*初診時に保険外併用療養費として3,000円を頂いております

医療機関からのご紹介又は紹介状をお持ちの方

会津中央病院 病診連携室

TEL 0242-33-7100

*ご紹介状をお持ちの方は病診連携室で受診予約を承っております。